

NEW CROWN 授業実践事例

BOOK 3 LESSON 3 授業例①

H.H. 先生

指導計画表

(全9時間)

時間	学習内容・主な活動
1	■とびら ・日本の文化を世界へ発信 ■GET Part 1 ・現在完了形（経験用法）の導入と練習
2	・現在完了形（経験用法）の復習 ・GET Part 1 の本文の導入と理解
3	■GET Part 2 ・現在完了形（完了用法）の導入と練習
4~5	・現在完了形（完了用法）の復習 ・GET 2 の本文の導入と理解、本文の落語練習
6	■USE Read ・英語落語の DVD 視聴と外国で受け入れられる落語の魅力とは何か考える。 ・本文インタビューの概略の理解
7	・本文の重要表現の確認と要約 ・クラウン資料集を参考に、英語落語と英語学習の関わりなどを考える。 教科書以外の小噺紹介
8	■USE Mini-project ・インタビューの初めかたと終わり方や質問内容を考え、インタビューの準備をする。
9	・ALT にグループごとに考えた質問をする。インタビューの結果をもとに、グループで ALT の紹介文を作る。

実践例

1. 世界に向けて発信する 日本文化を意識する

LESSON 3 の一番の狙いは世界に発信する日本の伝統文化に目を向けさせることにある。言葉としての英語を学んでいる生徒にとって、世界に発信する日本文化の代表として、言葉の文化である落語を取り上げるということに大きな意味がある。NEW CROWN の教科書では、3年間を通して、中1では、日本の文化として、けん玉、剣道、三味線を取り上げ、中2では寿司、花火師などを取り上げている。中3の落語の題材は、実際に外国で英語落語を演じて日本の伝統的な言葉による笑いの文化を発信している大島希巳江さんの取り組みをインタビューの形式を使って紹介している。生徒にとっては、自国の文化を英語で発信できることを意識し、改めて日本の文化を見つめ直すきっかけになる LESSON である。実際に勤務している地域では、中3対象に夏休み中にカナダの短期留学を行っており、各中学校から1名～3名の生徒が毎年参加している。その際に、日本から持って行く土産を英語で説明したり、各自で作ったアルバムを使って、自分の生活や地域の行事などを英語で説明している。そのとき、小噺を覚えて日本の落語をホストファミリーに披露できれば異文化交流の絶好の機会になる。落語という笑いで生徒とホストファミリーが通じ合えることはすばらしいことである。このようなことを念頭に入れて、LESSON 3 を指導し、最後は、Mini-project で ALT にインタビューをして、その情報をまとめる活動を行い LESSON 3 を締めくくった。

2. LESSON 3 指導の具体例

(1) LESSON 3 の話題についての導入

LESSON 3 の内容の中心である日本文化に注目させるために、次のような質問をして LESSON 3 を始めた。

T: These days Japanese culture is popular in the world. What Japanese culture do you think is popular in the world? Talk about it with your partner.
Ss: Anime. Japanese food. Sumo...

T: What Japanese culture are you interested in?
Ss: Anime. Japanese food...
T: Can you explain Japanese culture in English?
Ss: No, I can't. It is difficult for me to do it.
T: I think it's interesting for us to explain our culture to foreign people.
T: (希巳江さんの Picture card を見せて) Do you know this woman?
Ss: No. I don't.
T: She is Oshima Kimie. What is she doing in kimono?
Ss: She is performing rakugo.
T: Kimie-san is a rakugo performer. Why are the people laughing?
Ss: Rakugo is interesting.
T: She is performing rakugo in English. So foreign people can understand Japanese joke in rakugo. Have you ever been to rakugo show? (Have you ever~? は本時の target sentence であるが自然な文脈の中で前もって聞かせる)
Ss: Yes. / No.
T: You have been to rakugo show, S1. But you have never been to rakugo show, S2. I've been to rakugo show five or six times.
などのようなやり取りを行い、LESSON 3 では日本文化の中の落語を中心に内容が展開していることを知らせた。

(2) 現在完了の導入 (経験用法)

① (第一時)

T: (希巳江さんの海外落語ツアーの経験が p.29 に述べられている部分があるので、その話題を使い経験の導入をした)
Kimie-san has been to many countries to perform rakugo. Which countries has she ever been to? Can you guess? (地図を指しながら) She has been to India. Malaysia, Singapore...
T: I have never been to India. But I have been to Singapore once. I have listened to English rakugo before. It is fun. Have you ever listened to English rakugo, S2?
S2: No.
T: You have never listened to English rakugo.
この後、target sentence の説明と口頭練習を行い、練習として p.25 の Listen とそれに関連する Speak

を行った。最後は、Speak で得た情報を書いて、クラスでその情報を発表した。

② (第二時)

p.24 の本文に入る前に、現在完了形 (経験用法) の前時の復習をワークシートを使い行った。本文の導入は、次のように始めた。

T: Look at the picture. Emma is back in Australia now. She is talking with her friend, Shawn. What are they talking about? Can you guess?

Ss: About their school life?

T: No. They are talking about a rakugo show. Look at the poster of the rakugo show. What language is the poster written in?

Ss: English.

T: Where will the rakugo show be held?

Ss: Australia.

T: Right. Question: Who is going to the rakugo show? Listen to the CD and check the answer.

Ss: (CD を聞いた後、答えの確認) Shawn.

T: Yes. Shawn is going to the show. Then has Emma ever been to a rakugo show or listened to rakugo? Read the textbook and check the answer.

2 つ目の問いには、本文を黙読させて、その答えになる文を確認させた。

その後、本文の Have you ever been to one? の one の確認や look forward to ~ の意味の確認をして、本文音読、pair reading、本文の穴あきシートを使い英語を頭に残す練習をして、自然な対話ができるように練習した。

(3) 現在完了の導入 (完了用法)

① (第三時)

(男子がこれから車を洗おうとしている絵、その車を洗っている絵、洗い終わったことを表す絵の 3 種類の絵を見せて)

T: (1 つ目の絵を指して) Look at the picture. This man is Mr. Kato. What is he going to do?

Ss: He is going to wash his car.

T: (2 つ目の絵を指して) What is he doing?

Ss: He is washing it now.

T: (3 つ目の洗い終わった絵を指して) Is he still washing it?

Ss: No, he isn't.

T: Right. He has just washed it. He is happy now.

T: (同じように教科書 p.27 の 1 の Lisa が宿題をしている 3 つの絵を見せて) Look at this picture. Lisa is going to do her homework. (2 つ目の絵を見せて) What is she doing?

Ss: She is doing her homework.

T: (3 枚目を指して) Is she still doing her homework?

Ss: No, she isn't.

T: She has just finished it. How is she feeling now? She is feeling tired but happy.

このようなやり取りをしながら、完了用法が現在とつながりがあることを表す文だということをつかませる。

導入で使った 3 つの連続した絵を使い、He has just washed his car. / He hasn't washed his car yet. Has he washed his car? を口頭練習した。次に、p.27 の 2 の speak をペアで行い、それを書いてまとめた。

最後に完了用法をワークシートでまとめた。

② (第四時)

p.26 の本文には実際の英語小唄が載っている。poison は 2 年で習ったので、poisonous の意味は予測が付くと思うが、意味の確認をしてから、Emma の小唄の落ちを聞き取りのポイントにして CD を聞かせた。

T: Look at the picture. Emma is going to perform rakugo which was taught by Ken. There are two snakes. They are Tie and Hat. Listen to the CD and check the punch line, "ochi".

CD を聞かせてから、ペアでお互いの聞き取りが正しいかを確認させた。

上記の本文導入後は、簡単に本文説明を行い、小唄発表に時間をかけた。ここは小唄にチャレンジできるチャンスなので、音読から暗唱、2 匹のおどけた蛇になりきって小唄ができるように時間をかけた。落語なので本来は 1 人で 2 役をこなさなければならないが、ペアで協力して発表することも認めた。

練習に入る前に、三省堂から発売されている『やってみよう！教室英語落語』という本に付いているDVDを使い、実際の噺家による英語落語を見せて、話し方、ジェスチャーなど確認させた。その次に、そのDVDに収録されている著者の大島希巳江さん自身が実演しながら解説されている、「演じる時のポイント」を見せて、演じ方のコツを確認させた。大変分かりやすい解説で、生徒も納得のいくもので、さっそく練習を始めた。練習に入る前に①目線 ②表情 ③声の大きさ ④ジェスチャーを考えて演じるように伝えた。初めはぎこちない演技の生徒も、徐々に自信をもって演じることができるようになり、楽しみながら練習していた。個人練習後は、6人グループになりお互いに演技合い、各グループの中から代表を選び、各グループの代表がクラスの前で発表した。最終的にはクラスの真打を選んだが、生徒は初めての経験にも関わらず聞き手を意識して頑張って演じていた。

(4)USE Readの指導

① p.28,29はReadのページなので読むことに焦点が置かれているセクションではあるが、希巳江さんの落語活動を、インタビューを通して紹介しているので、開本は後にまわし、聞くことを優先して内容理解をはかった。

本文に入る前に、前述した『やってみよう！教室英語落語』のハワイ公演の一部分を視聴し、外国人の前で演じられる英語落語の雰囲気を感じ取らせた。なぜ落語が外国でも受け入れられるのかをペアで考えさせた。生徒にとっては難しい質問であったようだが、日本の日常生活の中から生まれる自然なユーモアがいいのではないかとか、わざとらしい笑いでないところがいいなどと答えた生徒がいた。本文のインタビューを聞く前には、次のようなoral introductionを行った。

T: You are going to listen to an interview between Kimie-san and Shawn. Before listening to the interview, what do you know about rakugo? How do you perform it? What do you use when you perform it? What title of rakugo do you know? Share the ideas with your neighbors. Can you tell us about your ideas?

②次に、インタビューの聞き取りについては、始めに大まかな話の概要理解をp.28のIn-Readingの1で行った。次にインタビューのポイント理解として新語の確認を行い、p.28の2の4つの質問を次のようなワークシートにして、聞きながらメモを取らせた。

2の質問：

(1)What did Shawn know about rakugo before the interview?

—He knew rakugo is a _____ in Japan.

(2)How many characters do rakugo stories usually have?

—They have _____ characters.

(3) Has Shawn heard a Japanese joke before?

— _____, he _____.

(4) How long has Kimie-san been on the tour?

—She has been on the tour _____.

(5) How has the tour been?

—It has been _____.

インタビューを聞いた後で、ペアで答えを確認し、クラス全体で解答した。インタビューの聞き取りの後は開本して、Why did Kimie-san begin to perform rakugo in English?の質問を与えて、希巳江さんが落語を始めたきっかけを答えている部分を読み取らせた。

中学生の段階は文字を音声化することが英語を身に付けるためには必須だと思うので、Readのセクションであっても音読を行っている。ここはインタビューなので、音読には適している。Chorus reading → Paced reading → Buzz reading → Individual reading をしてから、ペアになり、1~4のパラグラフから好きなparagraphを1つ選び、ShawnとKimieさん役になり、教科書に頼らずできるだけすらすら言えるまで対話練習させ発表させた。まとめとして、どのくらいインタビューの英語が頭に残っているか、教科書のp.29の3の「インタビューの記事をまとめよう」を、本文を見ずに記入させた。最後には、自分が希巳江さんにインタビューする立場なら、どんなことを聞きたいか質問を書かせた。

生徒からでた質問例：

- ・ What is the most difficult thing when you make foreign people laugh?
- ・ What rakugo is popular for foreign people?
- ・ Do you make rakugo stories by yourself?
- ・ What's your favorite rakugo?などが多かった。

落語のまとめとして、別冊の資料集にある「落語」というシートを配り、「英語落語の始まり」「落語で英語を学ぶ」利点などを読み、教科書以外の英語小断を示して、punch line を味わわせた。

ワークシートの小断

寿司屋 At a sushi bar

Customer: Excuse me, chef.

Chef: Yes.

Customer: This shrimp doesn't taste as good.

I was here two weeks ago, and it was delicious.

Chef: That's strange. They are the same shrimp. They came in on the same day.

(5)USE Mini-project の指導

教科書では実際の学校の先生にインタビューしようとなっているが、今回は今年来たばかりのALTに記者会見のように、生徒が記者役になり質問する形式をとった。生徒にとっては、native speakerの先生に自分の英語が伝わり、それに答えてもらったほうが英語使用への動機が高まると考えた。p.30の1のリスニングを行い、内容確認とインタビューのやり方を確認した。p.30の2で聞き取った内容のまとめ方を練習してから、グループに分かれた。グループになってからの流れは、以下の通りである。

①グループ内で協力して質問を考える

p.30の1で使われている質問の他に、ALTに聞きたい質問を考えさせた。グループごとに少なくとも5つ以上の質問を考えさせた。質問を作る際に相手のプライバシーにも配慮して質問を考えさせた。

②だれがどの質問をするかを分担する。

③インタビュータイム（1回目）

インタビュー本番では司会はJTが記者会見風に行い、ALTに答えてもらった。ALTの英語が聞き取

れないときは、聞き返しの表現、Could you say again? Could you speak more slowly? What did you say?などの表現が使えるように事前に練習した。メモは全員にとらせた。

④インタビュータイム（2回目）

各グループからの質問が終わってから、ALTの回答の中で特に興味をもった内容をいくつか選び、その内容についてさらに詳しく聞いてもよい時間をとった。その際、グループで質問の仕方を相談させた。

とっさでは、英語が出ないこともあるので、この時の質問は、教師の助けが必要であった。たとえば、ALTの日本の旅行体験を再度聞いてみたい生徒に対して、次のような切り出し方を示した

例：I'd like to ask about your trip to Kyoto again. Could you tell me more about it?

⑤インタビューのまとめ

最終的には、インタビューの情報で興味を持った内容を中心に、p.30の2の表のように一人一人にまとめさせた。しかし、生徒の英語の力によって、文としてまとめられる生徒はp.31のTryのように記事としてまとめるように勧めた。

3. まとめ

LESSON 3で、生徒は英語落語に初めてチャレンジして、英語が苦手な生徒も、楽しみながら仲間と練習している姿を目の当たりにして、人を動かす落語の力を感じた。生徒の中には、その後も、覚えたセリフを口に出している生徒もあり、落語で英語教育ができるのではないかと感じた。

2020年の東京オリンピックに向けて、日本を訪問する方に、自信をもって落語という笑いの日本文化を紹介できる生徒が増えることをうれしく思う。